

星野道夫写真展に行きました

アラスカの大自然と野生動物の写真家として知られている星野道夫さんの写真展に行ってきました。奈津子先生がテレビで見かけて写真展を知り、たまたま空いた時間で二人で行けることになったのです。

写真はアラスカの動物の写真が多いのですが、それを自然と人の生活とを織り交ぜながら表現しているようにもみえました。ところどころに本人のコメントがあって、ちょっと気になってメモしてきました。その一つは、

われわれの生活の中で大切な環境のひとつは
人間をとりまく生物の多様性であると僕はつねづね思っている
彼らの存在はわれわれ自身をほっとさせ
そして何より僕たちが何なのかを教えてくれるような気がする

これ、いつも感じます。でも、なかなか文字で表現できない気がして
見ながら、そうそう、とか思いました。
そして、前回ご紹介した、旭山動物園の元園長小菅さんの言葉

人は野生動物に触れていないと心を病んでしまうのだ

というのにも通じているのではないかと想像してしまいました。
おそらく、動物のプロであっても、そうでない人でも、きっと感じることはないのでしょうか？

自分の一生の中に自然という現実を感じ、そこで元気が湧き、とにかくやってみよう
という説明のつかない力を感じる

終わりの出口の手前にこんなメッセージがありました。そうだよね。って思いました。
そしてやってみよう！



ゆうメール

ひびき動物病院 かわらばん 2023年1月 第78号



系会：かたくらほのか

こんにちは。岡田響です。

新年になりました。今年もよろしくお願いいたします。

まずはご報告とお礼から。

12月に迷子でお騒がせしておりました、うちの愛猫のニコちゃんですが、
たくさんの方に協力いただきましたおかげで、約10日ほどしてから、
逃走現場近所の民家の敷地内で深夜に捕獲され、無事に家にかえってきました。
ご協力いただきました皆様、ご心配おかけした皆様、本当に本当に
ありがとうございます。こんなにたくさんのおい人たちに囲まれているんだ、
というのをたくさん実感する出来事となりました。

心より感謝しております。ありがとうございます。

痩せて帰ってきた愛猫は、すっかりおうちで元に戻っております。

寒くなる前でよかったです。

猫がいなくなった時、ちょうど月食の日が重なりました。皆さん見られましたか？
猫の捜索中に観察したオレンジ色の月は、まんがの「千。」とか「エヴァンゲリオン」
が頭を横切り、不思議な感覚の印象的な月食でした。

年末年始と言えばペットホテルのお預かりなどもありましたが、こちらは
新型コロナウイルスの影響でお休みさせていただきました。また、昨
年の改正動物愛護法の施行のために、ペットホテルの基準も変更があり
ました。これに伴い、当院のペットホテルは短期お預かりのみの対応と
なりましたのでよろしくお願いいたします（入院・治療の場合は除く）。

昨年より引続き様々な値上げのお知らせが届いております。当院では
利用価値の高いものを選択的に利用しておりますため、動物用薬をはじめ
各種サービス等にも必要に応じて追従して値上がりする可能性がある
と思われま。2月も、治療用ペットフードの値上げの予定があります。
一方では半導体のように突然手に入らなくなるものもたまにあります。
戦争やコロナが早く終わるといいですね。。。

あけましておめでとうございます
あ、という間に2023年がやって来
てしまいました！トリーマーが私一人になっ
てトリーミングの面ではご不便おかけして
おります(汗)いつもご利用してくださる本
当にありがとうございます!!
わんちゃんたちの生活が少しでも楽になる
ように今年も全力で頑張ります！ 片倉

Bちゃん



いつも配達ありがとうございます！

あけましておめでとうございます！
2022年は4チャンネルの年でした。
2023年は、4チャンネル+
発展の1年にしたいです。
わんちゃん、にゃんちゃん、また
ご家族の皆様が笑顔で
いられるよう、がんばります!!
磯部



*いつもと違うな？と感じたら、翌日までにご連絡ください。

ひびき動物病院 TEL045-832-0390
〒235-0045 横浜市磯子区洋光台6-2-17-102
午前9~12時 午後4~7時 受付30分前まで 予約制



ブログ

うちの子エピソード～ニコちゃんが逃げてしまいました～

442年ぶりの皆既月食が観られた日の朝、暖かなとても美しい日でした。こんな日は犬のじゅあ君の散歩→白山神社下のドッグランがあるカフェみつばさんでゆったりと過ごすのがパターン。そう、猫のニコちゃんも連れて行こう。と、ニコちゃんにもリードをつけてトートバッグに入れてルンルン気分でお散歩しました。ニコちゃんはうちの子になって6年。たま～にこうやって一緒に散歩し、みつばさんでお茶するのです。今まで一度もバッグから出たことはありません。でもこの油断が仇となりました。

いつものようにバッグを椅子においてクリームあんみつに舌鼓をしているとニコちゃんがひょこっとバッグから飛び出しました。慌ててリードを持ち、引き寄せた瞬間、リードが抜けて、あっという間にお店の裏から全速力で逃げてしまい、すぐに追いかけて見失いました。やってしまった！どうしよう。急いで辺りを探しましたが、呼んでも返事はありません。今ならまだ見つかるかもと店のマスターや常連さんも、病院のスタッフも加わって探してくださいました。院長がすぐにポスターを作ってくれたので、出会った人や周辺の家に配りながら探しました。一瞬、駐車場の茂みで猫の声が聞こえた気がしましたが、その後は全く反応がありませんでした。周囲の森の中に迷い込んだら帰れなくなってしまいそうです。とうとう日が暮れ、オレンジ色の月が浮かんでいました。

それから毎日夜明け前から診療の合間、仕事の行き帰り、夜中も家族でポスターを配りながら、隅から隅まで探し続けました。SNSを見てくださった方や病院に来てくださった飼い主さん、そのお友達、ポスターを見てくださった方など沢山の方が一緒に探してくださいました。私のミスでこんなことになってしまったのに、飼ってる猫がいなくなってしまうという気持ちを察していただき、ニコちゃんのことを心配して協力してくださいました。何とも申し訳ない気持ちとありがたい気持ちでいっぱいでした。しかし、有力な情報もなく、3日目になりました。周囲の人に勧められて探偵さんをお願いすることにしました。なんでも、本やテレビに出るほど凄い人。発見率70%、ほんとかな、大丈夫かな、でも藁をも掴む気持ちでした。

ペットレスキューというその人の会社は全国から依頼があり、すぐには来られないということで、オンライン検索会議からはじめました。ニコちゃんの特徴や性格、普段の様子など詳細に聞かれ、逃げた状況・場所などから、どのような行動を取りそうか、どの辺にいそうかを検討してくれました。また、搜索方法などを詳しく伝授していただきました。ニコちゃんの様子から、警戒して近くの民家の狭くて潜り込めそうなところにじっとしている（1週間以上出てこないことあり）可能性が高いので、近くの民家のお庭を搜索させて貰って下さいと言われました。うっ、その指令、ハードル高い。でも戸惑ってる場合ではない。恥を忍んでお願いに上がり、よそのお宅のお庭を隅々まで覗かせていただいたのです。皆さんとてもいいお方ばかりで、快く承諾していただきました。（大変ご迷惑をおかけしました。）

搜索5日目、ニコが逃げたその日にうちの庭に来たという方が現れました。逃げた場所から近く直線上のお宅でした。写真を見せると、「そうそう、この子。新しくここに来たの？って声をかけたらうちに来る野良ちゃんとどっかに行っちゃったの。その日以来見かけないけどね。」あー、ニコちゃんはここに来たんだと思うと涙が溢れました。早速お庭を搜索したけど見当たりませんでした。庭に野良ちゃんのためのご飯を置いているそうで、そこにカメラを置かせていただきました。でも映っていたのはいつもいる野良ちゃん達と、野生のタヌキとアライグマでした。次号に続く

「未病」と「養生」 ①



なんとなく言葉は聞いたことがあっても、わかるようでわからない、そんな言葉なような気がします。いかがでしょうか？
そんなの知ってる！いつもやっていますよ！っていう方もいらっしゃると思います。新型コロナウイルスの対策、老化するからだの対策などを意識していくには、様々なところでやはりこれらは真剣に取り組む価値が高いと再認識し、今回取り上げました。

「未病」とは、中医学や東洋医学の考えによく出ています。
・日本未病学会（ヒト）ホームページによると、「未病」という言葉は、2000年前の後漢の時代に、中国最古の医学書とされる「皇帝内経」にはじめてみられる。この中で、「未病」とは、「病気に向かう状態」を指し、この未病の時期を捉えて治すことができる人が、医療者として最高人（聖人）であると書かれている。とあり、

「未病」とは
「自覚症状はないが検査結果に異常がある状態」と
「自覚症状はあるが、検査結果に異常がない状態」の両方を含み、

「病気」とは
「自覚症状もあるが検査でも異常がある状態」と書かれています。

・神奈川県では（ヒトの）未病への取り組みが、全国でも先駆的に行われています。県のホームページには、「未病」とは、健康と病気の間に連続的に変化する状態のところで、この全ての過程を表す概念、と表記されています。そして、日常生活において、「未病改善」により、心身をより健康な状態に近づけていくことが重要、とあります。
・令和2年には国の健康・医療戦略の閣議決定の中で「未病」と「未病指標」が盛り込まれました。ここでも、「健康か病気かという二分論ではなく、健康と病気を連続的に捉える「未病」の考え方やその取組を進めるための指標の構築等が重要」とあります。

さて、それではペットの「未病」はどのように考えられるでしょうか？
「未病」を教える、伝える
「未病」を感じてもらう
「未病」を自分のこととしてもらう
私たち獣医師から飼い主さんへは、ここが特に大事と思いました。

来院されるペットは「病気」になってからが圧倒的に多い現状なので、医療者側からの積極的なアプローチがないと、飼い主さんが「未病」に気づけないかもしれないと思っています。そのためには、健康診断や各種検査を積極的に利用することで、客観的にみられるツールとなり、飼い主さんにもわかりやすく伝えられるので、明らかに悪くなる前に、検査などをご提案すると思います。

「未病」を適切に扱えるようになれば、もっとたくさんの動物たちを「病気」から遠ざけてあげることができるようになり、飼い主さんと過ごせる健康寿命も延伸させてあげることができるようになるかもしれません。
「未病」期を無駄にさせないことで、いい生活を続けられるようにしてあげたいです。

かわらばんやメールなど当院からのお知らせが不要な方はこちらのQRコードスキャン画面よりお知らせください。
（HPトップページの下部からも解除画面に行けます）
ご連絡いただきましたら速やかに停止させていただきます。

